鹿道原の飛行場づくり

岩田　美代子（大分市竹中・旧姓　後藤）

今思えば、日本が戦争へ〳〵と突き進んでゆく昭和十四年に入学したのでした。その頃は、小学校、青年学校、農協、役場などの建物が並び、木造二階建ての校舎が今もなつかしく思い出されて来ます。

三年より尋常小学校は国民学校と改称、この年昭和十六年十二月八日、大東亜戦争勃発、子供ながらに寒い校庭の端で、大人の人達の話を聞きながらわけも解らず、ただ大変なことになったのだなと感じたのを覚えています。

四年生の頃は、もうその頃見ることも出来なかったゴムまりが、南方方面の戦勝祝に配給があり、ヒビ割れの出来るのもかまわず、まりつきに興じたものでした。

夏は学校園で甘藷の植付、冬は炭俵の運び出しに栗ケ畑や三ノ岳に行ったものでした。農繁期の出征兵士家庭への勤労奉仕等、苦しい作業でしたが、楽しい思い出もたくさんありました。

昭和十八年には部落分散授業が始まり、お寺や広い家を借りての授業で、学芸会も部落毎に行ったように記憶しています。六年生になって、鹿道原の飛行場作りにも通い、真夏の太陽の下でモッコかつぎをし、空襲のサイレンで松林に逃げながら、ひたすら勝つことを信じて頑張っていたものでした。

二十年三月卒業、警報の出ない束の間、校舎の前のイモ床の落葉の中で担任の三浦先生と話し、卒業式らしいものもなく、勿論、卒業写真などない卒業でした。

若い男の先生は出征してゆき、再び教壇には帰って来られない先生もいました。

このように小学校時代の思い出は、日本の歴史の中でも大きく変る時代で、卒業して四十年余り今でも一番印象深く残っています。

昭和五十六年五月、久方ぶりに同級会を開きました。卒業写真のない私達が三十九年ぶりに卒業写真を撮ろうというのです。一年の担任後藤コマキ先生、二年、四年の神田千代先生も出席され、校舎前で記念撮影と植樹、そのあと、いつも遠足に行っていた水の元に全員登り、ここにも記念植樹をしました。